

HITOTSUBASHI UNIVERSITY 一橋大学



社会学部 社会学科

5.21.Tue. at Kunitachi

15:00~18:00

中北 浩爾 教授

政権交代の是非は？ 政策と選挙結果の因果関係は？ 学生たちが繰り広げる熱いバトル

講義の流れ

文献講義を通じて日本政治を多様な視点から分析する。発表者はレジジュメを作成、他のメンバーは要点や意見を約600字にまとめる。授業ではレジジュメに沿って要点を確認した後、発表者から提案された論点についてディスカッションする。

醍醐味

現代の日本政治について政局的な見方だけではなく、制度・歴史・比較などを手掛かりに多角的かつ構造的に捉えられるようになる。

「イ工的なつながりからネットを通じた関係性へ
激変する社会における政治の在り方とは」

「対立から中道へ流れていく政策内容
果たしてプラスか？ マイナスか？」

広い窓からキャンパスの新緑が一望できるゼミ室。定刻数分前。一人、また一人と学生が入室して行く。中北ゼミでは毎週、多種多様な文献講義を通じて日本政治のあり方について考察・意見交換を行っている。論客が揃った、さあ、ディスカッションのスタートだ。

「政治主導とは、首相を中心とした内閣が政治の方向性を決めることである。これに対して政治家主導とは、各省の大臣が官僚に指示を出して政治を進めていくことである」。中北先生のサポートもあり、的確な回答を得ることができた。疑問点が明らかになったところ、いよいよ本題へ。

「政権交代とは政治的決定の主体を総入れ替えることである」「政党間の競争には競争の基盤となる一般的な政策論の土台が必要」「企業や労組などのイ工的つながりからメールやSNSなどによる親密な共同体へと移行しつつある現代の新たなプラットフォームとは？」など各章のポイントがレジジュメに沿って読み上げられた。



「では、論点についてです。司会者の言葉を受けて、直江さんの提案した内容は次の通りだ。『政策的収斂を筆者はプラスに捉えているが、本当にそうなのか』。政策的収斂とは、対立する政党の政策が互いに歩み寄り、中道的な内容にまとまっていく現象を指す。『政権交代が起きても社会が不安定にならないという点で政策的収斂は悪いことではない』というのが筆者の意見だ。

VOICES 学生の声 of University Students



直江 智子さん(中央)
社会学部 社会学科4年
中北ゼミは3、4年生が一緒に学ぶので、議論の方法やゼミの進め方を先輩から後輩へ伝えていく流れが自然と出ています。これからは地方自治の在り方が鍵になる時代。卒業後は地方公務員として働く予定です。

横田 智樹さん(左)
社会学部 社会学科4年
中北ゼミは3、4年生が一緒に学ぶので、議論の方法やゼミの進め方を先輩から後輩へ伝えていく流れが自然と出ています。これからは地方自治の在り方が鍵になる時代。卒業後は地方公務員として働く予定です。

山内 直樹さん(右)
社会学部 社会学科3年
地方自治に興味があります。知識不足を実感しているので、ゼミで成長できることを期待しています。実は僕も元東進生。福岡先生や宮崎先生の授業が懐かしいです。一橋大を志望する人はセンター対策を早めに仕上げるのがポイント。キャンパスで待っています！

政治を語るなら人間を知ろう！
行き詰まったら、視点を変えてみる



今回の討論でポイントとなったのは「足腰の強い政党」の有権者が参加する政党だ。それには政党間の競争が必須だが、政策内容に違いがありすぎると有権者は不安になり、選べなくなる。この矛盾をどうするのか。そんな流れから終盤、中北先生から意外な問題提起がなされた。「そもそも人はどういった基準で特定の組織にコミットメントしていくのだろうか。そして、ある学生に向かって「君はなぜずっと横濱(野球ファン)なの？ 選手が入り変わるってずっと好きなんだよね。どうして？」と質問。

に理由はないんですね。パーツでもない。恋愛と同じで好きになった人が自分の好きなタイプになる」と中北先生。はっとする学生たち。人間を知らなければ政治は語れない。視点を変えることで新たな事実が見えてくる。夏にはゼミ合宿が、さらにその後には神戸大・大阪市立大と共に討論する「三商ゼミ」も予定されている。彼らのさらなる成長が楽しみだ。

一橋大学

資料の請求およびお問い合わせ先

〒186-8601 東京都国立市中2-1 一橋大学入試課
TEL.042-580-8150 FAX.042-580-8158
e-mail admission1284@dm.hit-u.ac.jp URL http://www.hit-u.ac.jp/

- 商学部
- 経済学部
- 法学部
- 社会学部

〔沿革・歴史〕

- 1875(明治8)年 森有礼が商法講習所を私設
- 1902(明治35)年 東京高等商業学校となる
- 1920(大正9)年 東京商科大学となる
- 1930(昭和5)年 国立へキャンパスを移転
- 1949(昭和24)年 一橋大学と改称。商学部・経済学部 法学社会学部の3学部となる
- 1951(昭和26)年 法学社会学部を法学部と社会学部に分割
- 1953(昭和28)年 大学院を設け、修士課程、博士課程を開設
- 1996(平成8)年 言語社会研究科(大学院)を設置
- 1998(平成10)年 国際企業戦略研究科(大学院)を設置
- 2004(平成16)年 マーキュリータワーの完成、法科大学院を設置
- 2004(平成16)年 国立大学法人一橋大学となる
- 2005(平成17)年 国際・公共政策大学院を設置
- 2010(平成22)年 創立135周年・国立移転80周年記念式典を挙

〔オープンキャンパス情報〕

8月2日(金)

※詳細は、大学ホームページをご覧ください



なかきた ほうじ
中北 浩爾先生
一橋大学大学院社会学研究科教授。東京大学法学部卒業(1991)。東京大学大学院法学政治学研究所博士課程中途退学(1995)。東京大学より博士(法学)の学位取得(1997)。東京大学法学部附属近代日本法政史料センター助教授。大阪市立大学法学部助教授、立教大学法学部教授等を歴任。2011年より現職。「レーパーヒストリー」誌2008年度最優秀論文賞受賞。